

サロンあべの

Vol. 129

トレッキング ロマン

私のネパール・ヒマラヤ トレッキング

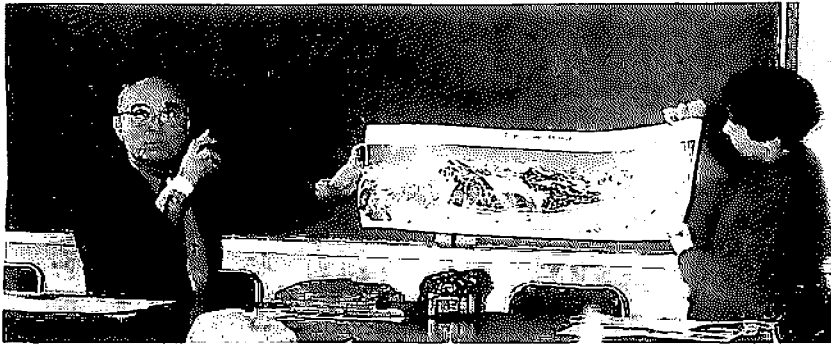
へサロン・あべのの2月の出会い
春の訪れを確認できる日さし
になった平成9年2月15日(土)
午後1時〜4時、育徳コミュニ
ティーセンター2階の研修室で
山野荘一氏をお迎えして、「ト
レッキングロマン」私のネパ
ール、ヒマラヤトレッキング」
をテーマにお話を伺いました。

山野氏は、若い時から四季の
日本アルプスに魅せられて山登
りを楽しまれていました。日本
百名山を訪ねることを定年後の
目的にされていたそうですが、
先にヒマラヤを訪れていた奥様
の勧めで、定年退職日(平成7
年)の翌日からご夫婦でネパ
ールへ20日間の記念旅行をされま
した。この時の旅でネパールに
魅せられて、トレッキングを楽
しまれるようになったそうです。
○トレッキング

語源としては、行進する・旅
行するという意味。ヒマラヤト

レッキングは、ヒマラヤの55
00m位の山岳地域を到達目標
にして、頂上を目指すのではな
い。自分で必要な物を担ぎ(個
人装備はカメラ・セーター・水
筒程度、他は人に頼む)、現地
の人たちと交流を持ちつつ、自
然と遊びながら「高山路遊」を
楽しむ。

山野氏の場合、2人で行き、
現地でシェルパ(ガイド)・コ
ック・キッチンボーイ・ポータ
ー等7〜8人を雇う。シェルパ
一人3500円〜4000円位。
酸素が平地より少なく、20%位
しかないので、高山病に備え酸
素ボンベを用意して行く。高山
病は怖い、頭痛・吐き気の症状
から呼吸困難・肺水腫そして死
に至る。予防には十分な睡眠と
水分補給が大切。アルコールは
絶対にとらない。ペテランの人
でも死に至る人もいる。
○キャラバンの日



朝早く(4時頃)出立、7、8時間かけてゆつくり(ネパール語でピスタリーノ)一歩一歩進む。時速2km弱で歩く。昼食は1、2時間かけて食べる。主食はインディカ米、そばや豆も

ある。定食は豆スープに野菜の煮物、チキン料理等だが、希望も聞いてくれる(お粥等)。補食として、日本からアルファーム、海苔、梅干し、佃煮、スープ、日本茶等用意していく。現地のじゃがいもがとても美味しい。水は2、3時間かけて汲みに行く(係の人が)場合もある。生水は絶対のため。風呂はない(現地の人に入る習慣がない)。キャンプ中のトイレは外で、女性にとってはきびしい。夜は高所で気温が下がる(マイナス10、20度)ので、防寒服を着てシユラフ(寝袋)にもぐる。シユラフには、湯たんぽ(氷枕様)が入れてもらえる。民宿のような宿舎(パッティ)もあり、素泊まりもできる。テントの朝はモーニングティーと洗面器一杯の湯から始まる。苦勞の多い旅であるが、自然とバランスをとりながら生活している地元の人

の生活を見ると、気持ちが悪まる。が、生活している現地の人

○交通

日本との時差は3時間15分遅れになっている。関西空港からカトマンズへの直行便が、水・日曜日に出発している。この便では、上海で一時間休憩がありカトマンズの到着時間が夜になるが、香港経由の他国便に乗れば、昼間のヒマラヤが見られる。カトマンズから拠点地までは、ヘリコプターやセスナ機で移動するが、交渉が難しい。また天候の関係もあり3日ばかりで飛んだこともある。飛行場は急斜面にあり、土面で石ころ道。チャーター料は約60ドル。

○ネパール

北海道の倍の広さがあり、北は8000mのヒマラヤ、南にはジャングルがあり、チトワン国立公園にはサイやワニ・象・

虎などがいる。人口は増加しているが、平均年齢が低い(乳幼児の死亡が大きい)。又、女性の寿命が特に短い。カースト制度が根強く残っている。宗教は

ラマ教で多民族社会。寺院が多く、行く先々で祭りや弔いに出会う。寺院の庭では死体を親族達で焼き、その灰を川に流す。その横で水浴びをしている人も

いる。人生の縮図が一目で眺められる。カトマンズ(標高1300m)での気温は17度(1月)〜28度(8月)。温度は1000mで6度下がるので4000mの山岳地帯になると24度下がることになる。カトマンズの街は美しいが、環境汚染が進んでいる。日本・ヨーロッパからの観光客が多い。寺院観光や遊覧飛行・一週間位の同位ハイキング等がある。

ひととおり、ネパールの話を伺った後、山野氏がこれまでに

行かれた(3回)カラパタール・アンナプルナ(BC)・ゴキキヨビーク等、現地の写真を見せていただきました。

カラパタール(5545m)からのエベレスト。

ゴキキヨビーク(5360m)で撮ったアンナプルナ。この写真は、朝日を受けて黄金色に輝いて、空の青さに引き込まれる深さがありました。

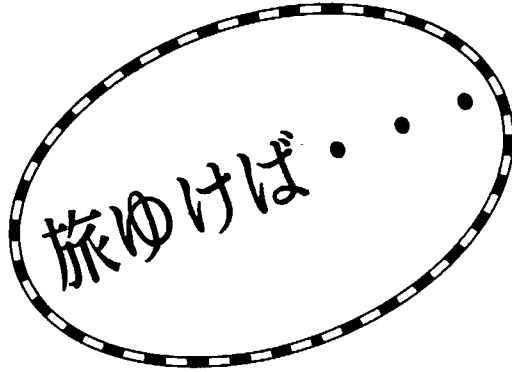
その他、数多くの壮大な山々の写真ばかりでなく、可憐な高山植物の花の写真もあったり、各地のお祭り風景の写真等、いずれも温かいお人柄を感じさせられるアングルで、そこからネパールの人たちの声が聴こえてくる身近な話も聞かせていただきました。又、大切な細密画の曼陀羅や不思議な音色が響き出す鉦等、様々なお土産も参加者に手渡して見せていただき、ネパールの風に一時ふれました。

山野氏は、現地の人たちとのふれあいを通してトレッキングを楽しまれています。単に山があるからそこへ登ると言うのではない、人と自然との幅広い出会いから、心を繋ぐ出会いを育

んでおられ、トレッキングだけでない深いお話となりました。最後に山野氏より「か・き・く・け・こ」の言葉が披露されました。

か||感動

き||興味
く||工夫
け||健康
こ||恋(人だけでなく、想う心を持つ)
参加者26名(文||富田慶子)



旅ゆけば...

人は詩人になれるでしょう。

旅ゆけば...

その地の風に、心が微笑むでしょう。

天と地と自らの発見も、旅なればこそ。

旅の思い出を語っていただきました。

旅人の宝物

出口 美和

大手旅行会社に今年の旅行の傾向をたずねた時「猿岩石(さるがんせき)のような旅行をしたい、けれどもあれほど危険を伴わない程度で」と要望される、と聞いたことがある。まさにテレビの影響ともいえるし、今までのバックツアーにはなかったものを見つけ始めたとも言える。

ツアーを好まない私は、国内を二、三泊の日程ですべて自分で組み、ひとり気ままに行くのがいい。

旅を△私がV楽しむためには、

- ① 目的地近郊の交通の便がよいこと
- ② 女性一人で安全に心地よく宿泊できる所を探すこと
- ③ 歩いて移動できるときはできるだけ

歩くこと

の三つの条件が挙げられると思う。

①は、車の運転をしないので、短時間で行動範囲を広くするには欠かせないポイントである。ただそのために目的地は限られるのが辛いところでもあるが。

②は、前もって何軒かにパンフレットの送付を願って検討する。こじんまりとした宿が好きなので、当地のタウン誌などが手に入る時は参考にする。

③は、例えば、地図を見て歩いていけそうな所は電車・バスを使わずにどんどん歩く。すると街中の思いがけない発見があり、おもしろそうなお店やギャラリーに立ち寄りながら行く。

・・・などなど勝手な能書きを並べてきたが、何はともあれ旅の時間を過ごすことで、旅に行く前と行った後に自分の中で、すこしでも変化を感じられれば、それが旅人の宝物で、その価値は自分で決めるものだと思う。



うれしい旅の思い出

杉山 蔦枝

サロンで、いつもお世話になっている山野莊一氏の「ネパール・ヒマラヤトレッキング」、ぜひお伺いしたいと、サロンの二月の出会いに寄せていただきました。

お話は期待以上にすばらしく、私たちに夢のような内容。写してこられた貴重なエベレストの美しい写真の数々を見せていただきました。伺っている私までがいつの間にかあたかもエベレストに直面しているよううなうれしい気持ちになり、とても楽しいひとときでした。奥様とご一緒にトレッキングなさるなんて、お幸せだなあと羨ましく思いました。又、山のお話を聞かせていただけることを楽しみにしています。

昨秋、私はリウマチ友の会の静岡方面の旅に参加しました。好天に恵まれ、心ゆくまで富士山に出会えました。右に左にとバスの窓からもホテルの部屋からも。もちろん、翌日の日本平、三保の松原と、行く先々でもそれは美しい麗峰が私たちを迎えてくれました。しかも帰路に着く頃には雲がかかって来て、とてもラッキーでした。こ

の美しい富士山も登ってみれば、ゴミや汚物で、すっかり汚されていると田部井淳子さんは嘆いておられます。悲しい事です。登山者は心して自然を大切にしたいものです。

この旅では、ホテルの従業員の女性が介助して下さいましたので、私たちでもみんな楽しく露天風呂にも入る事が出来てうれしいでした。これからはこのような配慮が当然になって、私たちでもいつ、どこへでも気軽に出かけられるようになってほしいです。

また、八年前に台湾へ行ってきました。当時の新興台湾はすさまじいばかりの、すごい迫力と活動力がみなぎり圧倒されました。それがひしひしと身に感じられ、これが発展途上国の若いエネルギーなのかと驚かされました。しかしその反面人々は実にみな親切でやさしい心づかいをして下さいました。古宮博物館では私のためにいつの間にか車椅子が用意されてあって、お陰で存分に楽に拝観する事が出来ました。車の乗り降りには必ず添乗員さんと、ドライバーさんが先に降りて介助して下さいました。

そして、人が変わっても、言葉が通じない若い人からも、どうしてもてなそうかという(サービス精神ばかりとは受け取れない...)温かい心づかいがじんじんと伝わってきました。おいしかったお料理や美しい景観もさることながら、私には異国で受けた人間的なぬくもりが、忘れられないうれしい旅の思い出となっています。



「出会い」楽しみに・・・

ウイズ東淀川 K I N

二月のハサロン・あべのVに参加、パネラー(山野氏)からネパールの旅を聞いた。そういえば、私は近頃ハ旅Vをしていない事に気付いた。みんなはなぜ旅をするんだろう? 山野氏のように山登りが好きな

人には「山という大きな目的がある」。

十九歳頃の私の場合は、海外へ旅をすれば「何か楽しいことがある」と思いこんでいた。そして、二十歳の九月に小銭をかき集め、初めての海外旅行に出た。

目的地は、オーストラリア。期間は自分が帰りたいくなるまで(実のところ五ヵ月でお金がなくなり日本へ帰国した)。オーストラリアで見た、たぐさんの美しい街並みや大自然の風景は今もアルバムの中にあるが、もう八年前のことで記憶が薄れている。

でも、旅行中の安宿で出会った『仲間』は忘れられない。日本、韓国、台湾、香港、カナダ、アメリカ、スイス、ドイツ、オーストラリア他、たぐさんの国々の人と出会えた。かたことの英語で、旅行や自分の国の話をし、酒を飲み、遊びに行ったりもした。戦争の話で怒鳴られたこともあったが、病気の時には助けてくれたりもした。

こんな初めての海外旅行で味を占め、毎年一回七日間ほど会社をさぼり、海外旅行へ行くようになった。お金がないので、近場のアジアが中心だ。目的は「人間ウォッチングと出会い」である。タイでは、だま

されてお金を取られた。韓国では、おいしいブルコギ(焼肉)をおごってもらった。インドでは、食あたりでおなか痛くトイレへ何度もかよった。

そう、インドのある古城の近くでの話。少年がお金を恵んでくれと私の服の袖を引っ張った。私はふと少年の足を見ると、びっくりするほど巨大である。身長一三〇cmほどの少年の足の裏は、なんと四〇cmほどもありそうだ。少年は「私は障害者だからお金を恵んでくれ」と言っているように見えた。「同情」は相手を見下しているみたいでイヤなので、私はお金を渡さなかった。しかし、興味があり観察していると、健康者の子供たちも同じように物乞いをしているが、足の大きい少年の方がよく走り回りお金をもらっている。

大きな足を引きずりながら走っている少年の後ろ姿は、本当に力強く「俺は生きているぞ」と主張しているかのように見えた。最近、時間もお金もなくて旅に行けない。こんな旅の思い出を書いてみると、また旅に出て人と出会いたくなってきた。

知的障害のある人の支援体制づくり 11 阿部 幸恵

◆三、国内の支援体制を考える◆

(一) 現行の制度の中で

今ある制度の中で、知的障害のある人が、在宅で自立した生活を送ることはどこまで可能でしょうか。

使えない制度

都道府県、市町村によって異なりますが、地域で独立して生活するためには、制度が十分でなかったり、また、制度の内容が、知的障害のある人の自立が念頭に置かれていないことが伺えます。

例えば、東京都で考えた場合、ホームヘルパーの利用は、手帳の程度が一、二度の人に限られています。また、障害年金も、主な対象は、一、二度の人です。

また、大阪のようなガイドヘルパー制度はありません。

その結果、三度からの障害の程度が軽い人で、援助があれば自分でできる人達には、利用できる制度がほとんどありません。

三度の人で、生活保護を受けながら、自活している場合、週に一、二回、ホームヘルパーの家事援助があれば、より充実した生活が送れます。また、ガイドヘルパーがいれば、初めて行く所も、迷わずに安心して行くことができるでしょう。

また、東京都には「心身障害者の緊急一時保護」という制度があります。対象は広く、手帳一〜四度の人となっていています。その内容は、介護人を登録するものと、施設に短期入所するものがあります。前者は、介護人を市の窓口で登録し、介助は原則的に介護人宅で行われます。

利用期間は、一ヶ月に五日以内です。後者は、入所施設、病院での短期入所です。利用期間は七日以内で、特例として、三〇日まで延長できます。しかし、利用毎に手続きが必要なことと、利用理由が保護者の出産や病氣、冠婚葬祭で介助ができない場合とあり、使いたらいものになっていきます。また、家族の休息（レスパイト）を利用理由として認めていない市もあります。

そして、あくまで利用を希望するのは、本人の保護者です。

中でも、施設保護を経験した人の様子を聞くと、ほとんどの場合が、嫌な経験として残っているようです。

訴えていくこと

身体障害のある人は、介護保障を要求してきた運動の成果もあり、比較的、制度が充実しています。現実には、独立して生活をしている身体障害の人の中には、いくつかの制度を有効に利用しています。知的障害のある人の場合、本人でなく親の声が行政に投げかけられてきました。その結果、親のニーズに沿った制度がつけられてきました。

知的障害のある本人が持つ、手帳やそ

の中のしおりに、ふりがなの表記はありません。「障害のある人に住みよい街づくりを」と、車いす、視覚障害、聴覚障害を配慮した環境づくりは考えられてきました。しかし、知的障害に配慮した環境づくり(情報をひらがな、絵等で簡単にすること)は、これまで全く関心がよせられてきませんでした。それは必要が

★ 集中力について

相撲をみていたら、解説者が「いやあ、すごい集中力ですね」と力士を誉めている。集中力で体力や体格では劣っている人が、優っている人を負かしてしまふ。体力でも筋肉の力でもない、集中力とは何だろう。

集中力がどういふものかよくわからないが、しかし、あればいいと思う。読まなくてはいけない本があつて、しかも休日であつたつぷり時間があつても、三〇分もたないうちに、アクビが出る。一時間もたてば、ストーブの火でセーターが焦げ臭くなつても気づかずに寝ていたりする。

ないと考えられてきたからです。

知的障害のある本人が、何を要求しているのか、それは、本人の声がなくて、かわつてはいきません。制度を変えていくことも、行政に、知的障害のある人の自立に理解を求めていくことから始めなければいけない現状です。これまで、あ

まりに本人の声が、表に出てこなかったのです。

近年、育成会の本人部会やピープル・ファーストが、行政交渉を行つています。やつと、スタート地点に立ち始めました。施設処遇や家族のための制度ではなく、本人のための制度づくりがなされていくことを期待します。

時間がないという言い訳は、たいていウソだ。少なくとも、私の場合、ウソが多い。時間を見つけようと思えば、いつでも見つけられる。ただ集中できないだけだ。

いつだったか、あまりに集中できないので、諦めてテレビをだらだらと見ていた。そのうちに気分も変わるだろうと思つたからだ。しかし、三時間、四時間とテレビをみても、いつころに変わらない。気がついたら、昨晚、たつぷり寝ていたにもかかわらず、また眠っていた。

こう考えると、集中力とは「やる気」



に近いのかもしれない。意欲や、気力にも似ている。

休日が終わって、一日をふりかえれば何をやっていたのか思い出せない。ただダラダラと時間を過ごしていたからだ。集中している時間しか、私たちの記憶に残らないらしい。

集中できない時間は、後味が悪い。いったい何をしていたんだろうという

お知らせ

ハサロン・あべの4月の出会い

日時 平成九年四月十九日(土)

午後一時〜四時

場所 育徳コミュニティセンター二階

(スロープ、車いすトイレあり)

〒壘 大阪市阿倍野区阪南町五一

十五〜二八

内容 スポーツ者

ーあなたのスポーツ、アドバイスしますー

パネラー 身体障害者スポーツセンター

指導主査 高橋 明 氏

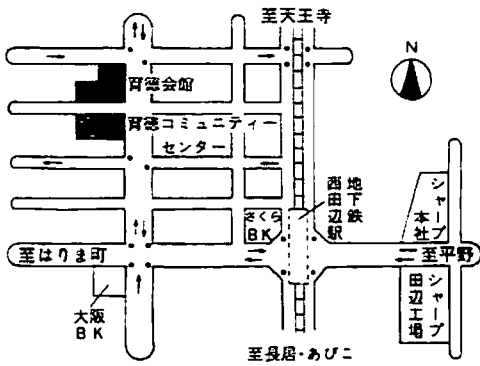
会費 なし

お問い合わせ先

TEL 〇六一六九一一〇二八(富田慶子)

空しさが残る。

いちばん手軽に集中する方法は、興奮することだ。日曜になると、中高年の男性、最近では、若い男女までも競馬や競輪の新聞をもって電車に乗り、車内では集中して読み、手に汗にぎってレースを見るのも、集中した時間を得るためだろう。そういう興奮がなければ、時間は、のんびんだらりと何の印



「作る つくる 創る」と「わがまち阿倍野 絵はがき散歩」そして「おもしろい姉ちゃん」はお休みです。

象も残さずに過ぎてしまう。

刺激による興奮がやっかいなのは、同じ刺激ばかりだと、やがて興奮しなくなることだ。刺激は徐々に強くする必要がある。だからこそ賭博による興奮は、最後には生活を破綻させてしまう。

安易に集中力を得ようとする方法は、賭博にしろ、むちゃな冒険にしろ、人を壊していく。自分の時間を、無意味な延長に終わらせず、なにか形あるものにしたという人の奥深い欲求を満たすためには、私たちは集中するという訓練を自らに課するしかない。

集中とは、いわば無我夢中になることである。なにかに自分自身を投げ込んで、我を忘れることが人の喜びにつながる。我を無くしたとき、自分が充実したことを感じる。

自分を無くしたときに、かえって自分を得るという逆説は、人間についての多くの場面で現れるが、集中力についてもそれが成立するのである。(知)

美智子のこんな話

岸田 美智子

日本社会福祉士会

近畿ブロック研修会に参加して

二月八日・九日、大津の雄琴で社会福祉士会の研修会に助言者として参加させていただきました。

この福祉士会は、昨年社会福祉法人になったばかりの団体で国家試験をパスした社会福祉士のみなさんが、年一回各ブロックに分かれて研修会を開いているそうです。

今回のメインテーマは「今、社会福祉士に求められているものは——あらためて権利擁護を考える——」で、全体でのシンポ

ジウムと五つの分科会に分かれてのレポート発表という形で進められ、参加者は二百名くらいでした。

私が参加した分科会は障害者の生活についての分科会で、テーマが「いかに生きるか いかに活かすか」というもので、三人の方からのレポート報告がありました。

●一つ目の報告は、琴の浦リハビリテーションセンターの東紀夫さんからの発表で、「重度身体障害者更生援護施設における退所困難なケースについて」というテーマで、実際に施設から退所できない三人の方の障害者の現状について話をされました。

このうち一人は重度障害者の方で、療養施設が空くのを待っておられる状態で、待機者が多くて二年以上も待たなければならぬそうです。

私はこの話を聞き、待っている間に自立プログラムを実践してみてもどうかという話をしました。

●二つ目の報告は、太陽作業所の中橋彦也さんからの報告で「グループホームにおける実践と今後の課題について」というものでした。ここのグループホームは、精神障

害者や知的障害者の方が四、五人で暮らしておられ、世話人は一人という体制で、やはり介護面や経済面で苦しいようでした。

この報告にたいしては、やはりグループ制度の充実と援助者の援助内容について話して行きました。食事作りなどは、バイトを雇って解決していて、そこに障害者がメニユーを考えたり、食費を管理したりという取り組みはないようでした。私からは、このような取組をぜひ実践して欲しいし、グループホームが単なる町の中の小さな施設にならないように気をつけて行って欲しいということを話しました。地域住民のかかわりや自治会などのかかわりにもぜひ目をむけて欲しいものです。

●三つ目の報告は、ハッピーステーションというできたばかりの団体のレポートで、この団体は地域の障害児やその家族などが中心になって作っておられます。代表者の笹尾恭子さんは軽度の女性障害者の方で、作業療法士という仕事を持ちながら、この活動をやっておられるパワフルな女性です。このハッピーステーションの活動は障害児の余暇活動——具体的には学校が休

みである土・日の過ごし方をみんなで楽しくお花見、プール、カラオケ、料理、クリスマス会など。楽しい企画をどんどんやっておられます。また通信が発行され、家族の方々も含めたカウンセリング活動などもやっておられ、今後とても期待したい団体のような活動。

私は、私の学校時代にもこのような活動があれば、また違った人生を送っていたか

など思いましたし、余暇活動だけでなく、日常生活の方も取り組んで行って欲しいと話しました。できれば、地域で自立しておられるいろいろな重度障害者の家を訪問したり、講演会など聞くのもいいのではないのでしょうか。学校時代から、このようなことを体験して行くのは、卒業後の進路にとてもよい影響を及ぼすと思うのです。そして、カウンセリング活動も障害者などの当事者

がカウンセラーになったりして行われるアカウンセリングをして行って欲しいと話しました。
私たちのライフネットワークの活動も紹介することができ、とても有意義な分科会でした。今後、社会福祉のあらゆる分野で活躍される社会福祉士の皆さんに、ぜひ期待したいものです。

週間前に電話をしました。新年の日に3人の娘に電話をしました。そしてその夜一本足で(ベッドから)降りて私の母にどんなに彼女を愛していたかと語り、彼女にキスをしベッドに戻りました。

父は朝早く起きて、コーヒーとトーストを作り、ベッドに戻り、息を引き取りました。彼らが言うのには、父は苦しんだ様子はなかったそうです。同じ時、私は食料雑貨店に居てゲーリーにかんしゃくを起こしていました。なぜならそこにいたくなかったからです。たぶん何かを感じていたのでしょう。その前の晩妹も何かを感じて体にきてしまい、次の朝母がどうかしたのだと考えました。私の母はその時父をチェックするため父のところにいたのですが・・・私がいつも父と話すように母と話すのも大へん困難でした。私の所から遠く離れていたのです。とにかく病気ではなかったのです。

どれほどの雪が降っているのか、
ですって?

154インチも積っているのですよ。

寒い! ブルルル!

私は外へ出ようとは思いません。寒いのは本当に私にとって厄介です。

今日、両親と先生の会議があります!

私の子供たちは、スリルでぞくぞくしています!

では、あなたに親しみを込めて、
お体大切に、あなたに
神の恩寵がありますように。

パーティー

アメリカのパティさんからの手紙

ハイ!

新年おめでとうございます。今年もあなたにとって良き年でありますように。

ニュースを見ていてびっくりしました。西部に大洪水がありました。こちらでは飛行機が4機墜落し、猛吹雪が3~4回ありました。半島の上の方の地域で雪の災害が続いています。厳冬のまっただ中です。人々は春が来て雪解けを待ち望んでいます。

さて、私は何をお話していたのですかしら。私の心は霧の中で、私のしたいことは眠ることだけです。私の父が1月2日に亡くなりました。長い間、心臓の疾患があったとはいえ、まだショックから立ち直れません。父の糖尿病は非常に悪く、ひざと足に糖尿病からくる神経痛がありました。

ナイアシン(商標-ニコチン酸)とキニーネ(マラリアの特効薬)を飲んでいて、それは非常によく効いていたそうです。

父はクリスマスの1週間前に医者ところにゆきましたら、医者はエラビルまでつれていきました。その理由は私にはわかりませんが、次の日、父は腎不全になっていたことがわかりました。病院に一週間いて、クリスマスイブに病院をでました。医者は病院から出たくなかったようですが、父が出たいといったそうです。エコーの検査を受け、心臓のカンフル剤を打ってもらいました。手術をするには、余りに悪くなりすぎていました。医者たちは、残された時間はもうないことを父に伝えたのだと思います。父は兄弟や姉妹に亡くなる一

HI!
 HAPPY NEW YEAR! I HOPE THE NEW YEAR HAS BEEN GOOD TO YOU. ITS KINDA SCARY WATCHING THE NEWS THE MASSIVE FLOODS IN THE WEST. HERE WE HAVE HAD 4 OR SO PLANE CRASHES, 500 B. IZZARDS AND PARTS OF THE UPPER PENINSULA HAVE BEEN DECLARED DISASTERS FROM ALL THE SNOW AND WINTERS JUST GETTING STRONG! THEY EXPECT FLOODS COME SPRING!
 WELL, I DON'T REMEMBER WHO I HAVE TOLD, MY MIND IS IN A FOG AND ALL I WANT TO DO IS SLEEP. MY DAD PASSED AWAY ON JAN 2. IT WAS STILL A SHOCK EVEN THOUGH HE HAD A HISTORY OF HEART PROBLEMS. HE HAD DIABETES REALLY BAD AND HAD DIABETES NEUROPATHY IN HIS LEGS AND FEET. HE WAS TAKING NIACIN AND QUININE FOR IT AND SAID IT WORKED GREAT FOR HIM. HE WENT TO THE DR. A WEEK BEFORE CHRISTMAS AND THE DR. TOOK HIM OFF AND PUT HIM ON ELAVIL. WHY I'LL NEVER KNOW. THE NEXT DAY HE WENT IN RENAL FAILURE. HE SPENT A WEEK IN THE HOSPITAL AND GOT OUT CHRISTMAS EVE. THEY DIDN'T WANT TO LET HIM GO BUT HE INSISTED. HE HAD AN ECHO DONE AND HIS HEART VALVES WERE SHOT AND HIS HEART WAS TOO BAD TO OPERATE. I THINK THEY TOLD HIM HE HAD NO MORE TIME LEFT. THE WEEK BEFORE HE DIED HE CALLED ALL HIS BROTHERS AND SISTER AND MOM. ON NEW YEARS DAY HE CALLED HIS 3 DAUGHTERS AND THAT NIGHT HE GOT DOWN ON ONE KNEE AND TOLD MY MOM HOW MUCH HE LOVED HER, KISSED HER AND WENT TO BED. HE GOT UP EARLY AND MADE COFFEE AND SOME TOAST, WENT BACK TO BED AND PASSED AWAY. THEY SAID HE SUFFERED NO PAIN. AT THE SAME YTIME I WAS AT THE GROCERY STORE AND I WAS MAD AT GERRY BECAUSE I DIDN'T WANT TO BE THERE. I GUESS I FELT SOMETHING. THE NIGHT BEFORE MY SISTER GOT REALLY SICK AND THE NEXT MORNUNG SHE WAS SO SICK SHE THOUGHT IT WAS MY MOM. MY MOM THEN WENT TO CHECK ON MY DAD. IT'S VERY HARD AS I COULD ALWAYS TALK TO MY DAD. MY MOM DISTANCES HERSELF FROM ME BECAUSE SHE DOESN'T LIKE SICK PEOPLE GOT ANY SNOW? WE HAVE OVER 150 INCHES. COLD! BRRRRR!
 I TRY NOT TO GO OUT. THE COLD REALLY BOTHERS ME. I HAVE TO GO OUT TODAY AS IT'S PARENT TEACHER CONFERENCE. MY KIDS ARE SO THRILLED!
 WELL I WILL CLOSE FOR NOW,
 TAKE CARE AND GOD BLESS,
 PATTI



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」4月の出会い

日時；4月20日(日) 午後1:30-4:00
場所；淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」
[淀川区三国本町2-14-3]
内容；「高齢者の健康管理について」
パネラー；淀川区老人福祉センター保健指導員
嶋田 澄京氏
会費；なし
問い合わせ先；淀川区社協 ボランティア・ビューロー
TEL06-394-2900

■「サロンつるみ」4月の出会い

日時；4月20日(日) 午後1:30-4:00
内容；鶴見緑地へお花見に行きます。
集合場所・参加費等はビューローへ
問い合わせ先；TEL06-913-7070
(鶴見区ボランティア・ビューロー・藤井・山本)

■《てくてく・すみよし》4月の出会い

日時；4月13日(日) 午後11時(集合)

集合場所；大阪府立病院駐車場前

内容；「お花見&ウォークラリー」
大阪市住吉区の万代公園でお花見とウォークラリー(福引付)を
楽しめます。

会費；1000円(昼食付)
お申込み・問い合わせ先；
TEL06-692-8411(山本)

Woo旅行倶楽部より

このたびは、<サロン・あべの>紙で、
「Woo旅行倶楽部」をご紹介いただき、
本当にありがとうございました。

みなさんの機関紙は、いつも読ませていただき、
自分たちも頑張らなきゃ…と思っています。
記事の中では、岸田美智子さんが書いておられるものが、
特におもしろく参考になります。

と・こ・ろ・でWooニュースは「カセット版」と「点字版」
もあります。一度、<サロン・あべの>紙の
カセット版を聞いてみたいと思っています。

FROM EDITOR

編集後記

「こんにちは」って、声をかけられて、はてどなたでしたか、さてどこでお会いしましたか、と思うことがある。
この間も記憶の配線が繋がらないまま、ハアとかエエとかあいまいに話をしていて、終わりのころに<サロン>紙が出てきてようやくつながって「3月の例会に行くね」と別れた人がいる。が、名前は今もって出てこない。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.129[97. 3.15.発行] 定価¥100.
代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365
連絡先；冨田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028
表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子
郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941
印刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F TEL06-719-8212 TEL06-719-8213

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)